

教育目標

【自分づくり】社会に目を開き 「なりたい自分」の姿を描き 実現しようとする人

- 自ら考え、表現できる人（創造）
- 仲間とともに高め合える人（共生）
- 心身ともにたくましい人（健康）

学校だより 第31号

ひらく

平成29年 1月23日発行
須賀川市立第三中学校
TEL 73-2377
発行責任者：校長 高崎則行

優れた実績が多くなるのは、学校全体でも頑張っている証拠

やかんの中が沸騰しているから湯気が立つ

右の図のAは湯気です。Cはやかん本体です。やかんの注ぎ口からは蒸気が勢いよく吹き出ているはずですが、透明で目に見えません。この部分がBです。

この学校だよりでも「各種表彰の記録」の欄で、大会やコンクールで活躍した生徒、作品が認められた生徒を紹介してきました。受賞の報に触れると、私はいつもこのような「やかん」の姿を思い浮かべます。

やかんが熱せられ、中の水が対流し沸騰（ふつとう）すると、蒸気が注ぎ口から噴き出して白く見えます。この白く見える蒸気の部分（A）が表彰者で、もうひと頑張りで表彰されるだろう生徒（B）もいて、そしてそれらを支えているのは大勢の生徒（C）なのだろうと思うのです。やかん本体の内部が沸騰しているのであれば、蒸気となって注ぎ口から噴き出る水の分子は、どの分子であっても不思議ではありません。必然的に白く見える蒸気も多くなるでしょう。

個人でなくて、チームでも同じです。運動部であれば、部員一人一人の自覚があって全体として頑張っているチームは、選ばれて出場した選手が優れた実績を収めます。どの運動部も互いに切磋琢磨（せつさたくま）して学校全体で頑張っているときは実績をあげる部も増えます。

そんな機運（きうん）が高まってきたように思いますが、さらに「一人残らず」という状態を私は期待しています。そして、当事者である生徒たちが同じ考えに立って生活してくれたときに、それは実現されるのだと思います。

ここでは繰り返しません。昨年度の6月、当時の3年生に「受験勉強は、個人戦じゃない」という文章を送り、昨年度の学校だより（第32号）で紹介しました。先生方の多くが、「みんなで頑張ろう」という雰囲気のあるクラスでは、もうひと頑張りの生徒たちがみんな合格するという経験をしていること。協力し合って授業を充実させる、効果的な勉強方法を教え合い、励まし合って家庭学習を継続する。そうして、いつも誰かがみんなを引っ張っているクラスを実現することを呼びかけました。これは、何も受験勉強に限ったことではありません。

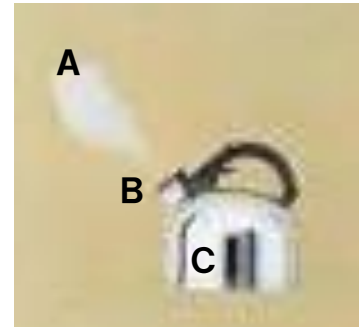
さて、第3学期は、第2学期の学校評価の結果を踏まえ、次の3点を重点に教職員一丸となってもうひと頑張りをして、新年度の学校生活の充実につながるよう取り組んでまいりたい決意です。

第3学期の重点事項

- 1 学力向上対策のしめくくりとして、学習活動の充実と個別指導の徹底を図る。
- 2 一人の生徒も独（ひと）りにしない集団の実現に努める。
- 3 学級の実態を踏まえて生活習慣・適応指導を充実させる。

特に「2」のような集団にしていくことを生徒・教師共通の願いにし、一人一人の生活習慣・適応指導（3）を十分に行ってまいりたいと思います。そのことが学力向上対策（1）にも成果となって表れるものと考えています。

なお、2学期末にご協力いただいた保護者アンケートの結果につきましては、学校ホームページに掲載するとともに、2月8日（水）授業参観日の学年保護者会でも概要をご紹介したいと考えています。今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

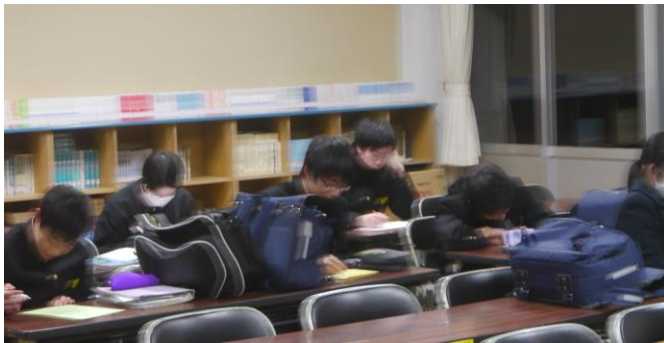


放課後学習室を利用させてください

3学年では、部活動引退後から第2、第3会議室で放課後学習室を開設しています。わからないところは先生に質問できますので、これから受験する生徒も、すでに合格が決まった生徒も大いに利用してほしいと思います。

第2会議室は、主に一人で学習したい生徒、第3会議室は友達と教え合って勉強したい生徒が利用しています。利用時間は、午後6時00分までとなっています。

なお、1、2年生については、勉強と部活動との両立を重視して授業日には実施していませんが、冬休みにそれぞれ4日間、5日間（午前の部・午後の部）、学習会を実施しました。



給食試食会に参加を

2月8日（水）、本年度最後の授業参観を予定しています。すでにご案内をさし上げておりますが、この日は給食試食会を予定しています。

先日、3名の女子生徒が栄養技師のところに来て、ちゃんと整列して、

「今日の給食おいしかったです。ありがとうございます。」

とあいさつをしたそうです。

三中自慢の給食を大勢の方に味わっていただきたいと思いますので、ぜひご参加ください。

学校事務の心得「すべては子どもたちのために」

皆さんご存知のことと思いますが、学校にも事務職員がいます。職務は、文書処理、服務勤務、給与、財務・会計、施設・物品の管理など、極めて多岐（たき）にわたります。直接子どもたちの教育にあたる機会はありませんが、企画運営部門にも所属し、円滑な校務運営と教育活動の充実に欠くことのできない職責を担い、校長はじめ職員への助言も行っています。

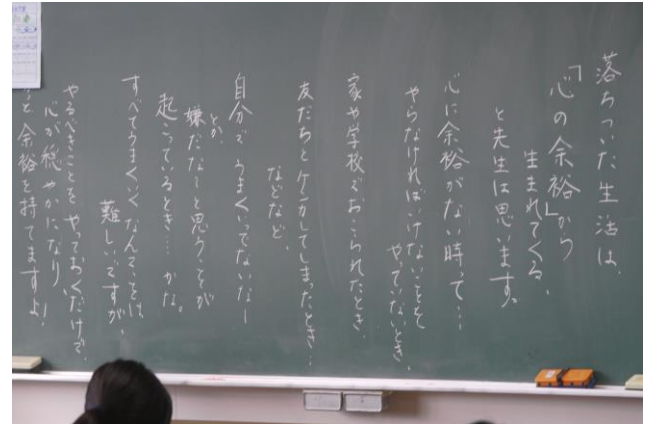


教材教具を速やかに購入できるのも、修理・修繕が滞（とどこお）りなく進められるのも、教員が子どもと触れ合い、教育に専念できるのも学校事務のお蔭（かげ）です。本校の鈴木信子主任主査は、市内7校の共同事務グループのリーダーを務め、「すべては子どもたちのために」をモットーに学校事務にあたっています。

生徒を迎える担任の言葉

朝、柳橋綾子教諭の教室に行くと、黒板に彼女のメッセージが書いてあります。

ある日は、こんな内容でした。



落ち着いた生活は

「心の余裕」から／生まれてくる。

と先生は思います。

心に余裕がない時って

やらなければならないことを／やっていないとき

家や学校でおこられたとき、

友だちとケンカをしてしまったとき／などなど

自分でうまくいっていないなー／とか

嫌だなーと思うことが

起きているとき……かな

すべてうまくいくなんてことは難しいですが、

やるべきことをやっておくだけで

心が穏やかになり、

心に余裕が持てますよ。

今日一日、充実した学校生活を送ってほしいという思いで、毎日毎日続けています。「継続は力なり」で、子どもたちは、この言葉の力に知らず知らずのうちに感化されていることでしょう。毎朝、子どもたちを迎えるのは、黒板に書かれた担任の言葉です。